

「つなぐ～熊本の明日へ～」を読んで

甲佐町立甲佐中学校 1年 本田 楓栞

2016年4月14日、16日に熊本地震が起きた。小学5年生だった私は、前震の夜、家族と過ごしていた。その時は、小学校での避難訓練が役立ち、素早く行動することができた。しかし、その後私は、親と離れることが怖くなった。

本震は、家族全員で寝ているときに起きた。私は怖くて、布団から起き上がることができなかった。本震の後、地区の人で近くの消防小屋に避難した。そこは新しく建てられたばかりだったので、安心して過ごすことができた。そこでごはんを食べたり、テレビを見たりして過ごした。学校は休みだということだったので、家族や近所の人たちと過ごした。

それから1年たったある日。私は小学6年生になり、児童会長として全校生徒をまとめるなど前へ歩き始めていた。しかし、親から離れて学校にいる時、たまに不安な気持ちになることがあった。気にしないように友だちと話をして過ごしていたが、自分自身が変わったようで怖かった。

卒業式の数日前のことだった。私は家族の都合で引っ越すことになった。その前から少し話は聞いていたが、自分の意思で中学校を決めることはできなかった。家族と離れるのが怖かったからだ。しかし、本当の気持ちを家族に知ってほしいと思い、勇気を出して話をした。「本当は、小学校から一緒に過ごした友だちと同じ中学校に行きたい。でも、家族と離れるのは怖い。」その気持ちを、家族はしっかり聞いてくれた。そのことで、私の心は決まった。新しい中学校へ行こうと思った。

不安でいっぱいだったが、甲佐中学校では友だちがたくさんできた。そして、勉強と部活動、どちらも充実した学校生活を送ることができている。転校してよかったと思えることが、今はとてもうれしい。

たまに考える。もし、熊本地震がなかったら、私は転校したのだろうか。自分一人ででも小学校と一緒に過ごした友だちと同じ中学校へ行く選択をしたのではないか。そうかもしれないし、そうでないかもしれない。でも私の中学校選択に、熊本地震が影響したことは間違いない。

道徳の時間に「つなぐ～熊本の明日へ～」を読んだ。「全国からのエール」というものだったが、あの時のことを思い出した。全国のいろんな学校から応援の寄せ書きをもらったし、私の小学校では、岐阜県の先生が勉強を教えるために半年間ほど来てくださった。怖くて不安だったけど、励まされることも多かった。それを思い出せたのは、この話を読んだからだ。

私が今住んでいる甲佐町は、復興の途中である。これからは、どうしたらお世話になっているこの町の役に立てるかを考えていきたい。違う町から来た私が、甲佐町に「エール」をおくりたい。そう思っている。